

# 藤樹記念館通信 ②

## 江戸の陽明学へ

藤樹から松陰へ

中江藤樹記念館 横井正

今回は「致良知」「心即理」「知行合一」「天地万物一体の仁」といった思想を積極的に取り入れた代表的な人物を陽明学者として時系列的に紹介します。

先ず「日本陽明学の祖」ならびに「近江聖人」と称された中江藤樹（一六〇八〜四八）が挙げられます。



藤樹先生肖像画

藤樹は、最初聖人になるという目的のために朱子学を独学自修しましたが、課題を突き詰めていくうちに陽明学に出会い、それに共感していききました。

次に、藤樹の門人であった熊沢蕃山（一六一九〜九一）が挙げられます。門人として約八ヶ月間藤樹に学んだ蕃山は、師を尊敬しながらも絶対視するのではなく、備前岡山藩で池田光政に仕え、「良知良能」説により、庶民のための藩政に尽力しました。

その後幕府が朱子学を官学としましたので、陽明学は一時停滞しました。しかし、三輪執斎（一六六九〜一七四四）が「標註伝習録」を刊行し、陽明学の普及に努めました。執斎

は、一七二四年と一七四〇年に藤樹書院に参詣しています。

続いて、一八二一年、佐藤一斎

（一七七二〜一八五九）が、藤樹書院を訪れ、藤樹を敬慕する賛を残しています。一斎は、昌平黌の儒官でしたので、表向きは朱子学を奉じつつ実は陽明学を唱え、佐久間象山（一八一〜一八〇九）・横井小南（一八〇九〜一八七七）・山田方谷（一八〇五〜一八七七）などを輩出しています。

そして、一八三二年に藤樹書院を訪れた大塩平八郎（一七九三〜一八三七）は、一八三三年に「大學」、一八三四年には「孝経」を講じました。

一八三七年に大塩の起こした乱は、「大學」の「在親民」を「民を親しむ」と解した王陽明の影響を受けているのではないかと思われま



吉田松陰肖像画

明治維新前になると、佐久間象山の門人の吉田松陰（一八三〇〜一八五九）は、松下村塾を開き、思想と実践の基盤として陽明学を講じたようです。松陰も「翁問答」を精読しています。このように整理してみますと、藤樹が「日本陽明学の祖」といわれる所以を理解していただけると思います。只今、記念館では、各々の人物に纏

わる資料を展示し、江戸時代の陽明学の変遷を検証していただきたいと思

い、小企画展を開催しています。（九月三十日まで）

## 総会のお知らせ

日時 六月十九日（金）

十九時三十分より

場所 安曇川公民館

▼引き続き、小講演会

演題 「藤樹先生と私」

講師 徳丸和枝氏（当会理事）

## 賛助会員一覧

- ソエダ 株式会社 安曇川町五番領
- 株式会社 中村測量設計 野洲市小篠原
- 《以上新規》
- ウエストレイクホテル可以登楼
- 株式会社 大山建設
- 株式会社 桑原組
- 有限会社 宏和商事
- 有限会社 白浜荘
- 社会福祉法人 新旭みのり会
- 株式会社 TADCOコーポレーション
- 鉄屋商事 株式会社
- とも栄 藤樹街道本店
- 中村印刷 株式会社
- ニッケイ工業 株式会社
- 有限会社 馬場塗装
- 三田村印刷 株式会社
- 有限会社 綿庄食品店

（五十首順）

## あとがき

### 薄れゆく「孝」

「私の心を慰めてくれる子は誰もいなかったです。『そんなことやつてから詐欺に遭うねん』と、長男に言われたことはグサリとききましたね。」（振り込め詐欺に遭った八十代の女性）

これは、二月十九日放映のNHKクローズアップ現代『詐欺被害者閉ざされた苦悩』で紹介された一コマです。詐欺の被害に遭った老父母には、自分を責める人が少なくない」とのことです。さらに、「詐欺の話（を）言うと息子も怒るもん、『言わんといてくれ』『聞きたくない』。本人はつらい、本当につらい。」と孤立感を深めていく…。そして、被害者の中には、自ら命を絶つた人がいたことも分かってきた…。この詐欺、誠に許し難い犯罪です。

高齢化、少子化、過疎化、核家族化、それに経済的格差といった社会の急激な変化が、家族や親子の間に壁や溝を作っているように思えます。親の子に対する募る「愛」と、子の親に対する薄れゆく「孝」の「スキ」を狙ったようなオレオレ詐欺。老人の孤独死やこうした詐欺の被害を防ぐためにも、「孝」を学び、「絆」を深めたいものです。（H・M）